



俺達の必死

karasuno10

宿命

俺達の必死

烏野
博史

まさかまさちか
真坂正親 (17) 高校生
とおのろくお
遠野六雄 (17) 高校生
こはまれいか
小浜麗華 (17) 高校生
女 (25)
男 (30)



転



氷②



キスしたかった
なあー……



① ショッピングモール

冬服の買い物客が行き交う。枝に枯葉を数枚つけた木が一本植わっている。

枝から枯れた葉が舞い落ちる。

コート姿の真坂正親（17）が店から出てくる。正親の頭には毛がなく、鬢かつらを被かっている。

遠野六雄（17）がやってくる。小さめの半そでシャツ、ジーンズ姿。ジーンズにぴっちりとしたシャツを入れ込み。そこから筋肉質な腕が伸びている。

六雄ろくお 「正ちゃんじゃないか！」

六雄ろくお の方向を見る正親まさちかは嫌な顔をする。

六雄ろくお が腰に手を当て仁王立ちしている。

正親まさちか 「ホモの……六雄？」

六雄ろくお は正親まさちか にかけてよる。

六雄ろくお 「久しぶり！ 正ちゃん」

正親まさちか は六雄ろくお から逃れるように歩き出す。

正親まさちか に駆け寄り、顔を覗き込む六雄ろくお。

六雄ろくお 「正ちゃんとこんな所で出会うなんて。」

運命を感じるよ」

ろくお 六雄に背を向け、腕時計を見る正親。
まさちか

正親 「行かないと……」

ろくお 正親は踵を歩き出す。六雄は正親の肩
まさちか
を抱き、傍らを歩き出す。

ろくお 六雄 「仕方ないなー正ちゃんと一緒に」
まさちか

正親は六雄の手を振りほどく。

まさちか 正親 「(即座に)来るなよ！」

ろくお 六雄 「え？」

正親 「わかるだろ！話したくないんだよ！」

ろくお 六雄 「ええ、わからないよ。俺たち親友以上

恋人未満だろ？」

まさちか 正親 「(即座に)知り合い以下だ！」

ろくお 六雄は正親の鬘を触ろうとする。

ろくお 六雄 「正ちゃんこれどこで買ったの」

まさちか 正親は六雄の手を避ける。

まさちか 正親 「よせよ」

ろくお 六雄はすかさず正親の鬘を触る。

ろくお 六雄 「うわっサラサラヘアーじゃん！」

まさちか 正親 「触るなって！」

正親まさちかが頭を動かした勢いで鬘かつらが大きく
ずれる。すぐさま鬘かつらを元に戻す正親まさちか。

六雄ろくお「ごめん」

正親まさちか「……とにかく。お前。あっち行け」

正親まさちかは六雄ろくおを追い払うように手を振り
ながら、歩きだす。

六雄ろくお「何で？」

正親まさちか「これからデートなんだよ！ デート」

②同・カフェテラス

正親まさちかと六雄ろくおがテーブルをはさみ腰掛け
ている。テーブルの上、正親まさちかの前には
ホットコーヒー、六雄ろくおの前にはパフエ
がのっている。

目を見開き熱狂的笑みの六雄ろくおは前のめ
り、机に両肘をついて座っている。

六雄ろくお「正ちゃんの彼女ってどんな人？」

正親まさちかは腕を組み、六雄ろくおをにらみ付ける。

正親まさちか「（低い声で）……なんでお前がそこに
座るんだ？」

六雄ろくお 「なんだよ。黙ってればイケメンなのに」

六雄ろくお はパフェを一口たべる。

正親まさちか ははにかみながら、

正親まさちか 「まあ、お前も残念なファッションセン

スを除けばイケメンなのにな」

六雄ろくお 「親友として、正まさちゃんの彼女に挨拶ー」

正親まさちか 「するなよ！」

正親まさちか はテーブルに手を突き、勢いよく

立ち上がる。

六雄ろくお はパフェを食べる。

正親まさちか は腕時計を確認して、取り出した

財布の中身を確認する。

正親まさちか 「……そのパフェ……おごるからさ……

帰かえつてくれよ」

六雄ろくお 「正ちゃん」

正親まさちか 「わかってくれ、親友の頼みだろ？」

六雄ろくお 「髪の毛の事まだ言っていないんだねー」

正親まさちか は六雄のシャツを掴みあげる。

正親まさちか 「（すごい剣幕で）言うわけないだろ！

それ以上口を開いたら殺す！ ……麗華

ちゃんの前ではなおさらだ」

六雄ろくお「正ちゃん……」

六雄ろくおはうつむく。

正親まさちか「だから帰ってくれ」

六雄ろくお「(ぼそりと) 本当の愛があるなら」

六雄ろくおは顔を上げ目を見開く。

六雄ろくお「本当の愛があるなら、そのままの正まさち

ちゃんを知っても愛せるはずだ！ そして俺

ならハゲの正まさちゃんを愛することが出来る！」

正親まさちか「だまれよ！」

六雄ろくおは両手でガッツポーズをとる。

六雄ろくお「正ちゃん。好きだー！」

あわてて六雄ろくおの口をふさぎ、あたりを

見回す正親まさちか。あたりが六雄ろくおに注目する。

小浜麗華こはまれいか(17)が歩いてくる。

麗華まさ「正ちゃんその人は？」

小顔で足の長い、麗華が立っている。

正親まさちか「麗華ちゃん」

六雄ろくお「本当の自分を見せるんだ正まさちゃん！」

正親まさちか「うるさい！」

麗華 「どうしたの？」

正親 「なんでもない！」

真剣な眼の正親。

小首をかしげる麗華。

六雄 「自分を偽るのはやめよう」

正親 「だまれよ。俺の事なんかこれっぽっち

もわかっていないくせに！」

六雄 「……」

正親はごまかすように笑う。

正親 「驚かせてごめんね。すぐ帰らせるから」

六雄を指差す正親。

正親 「こいつ俺の中学の時の知り合い——」

六雄 「恋人だろ！」

正親 「誰がだよ！」

麗華の声 「私も知りたいな。正ちゃんの秘密」

正親は目を見開き振り返る。

麗華は微笑む。

麗華 「どんな秘密だって正ちゃんの事を嫌い

になつたりしないわ！ 大丈夫！」

正親はまぶしそうに目を細める。口を

への字に曲げる六雄。ろくお

正親まさちか 「でも、物事には順序つてもものが……」

正親まさちか はうつむき、ぎゅつと目を閉じる。

麗華 「私たちはどんな秘密でも分かち合える！」

正親まさちか は目を見開き顔を上げる。微笑す

る麗華。

正親まさちか 「麗華ちゃん……」

正親まさちか は顔にみるみる笑みが広がる。

麗華まさちか は正親の頬に手を伸ばす。

正親まさちか 「俺、麗華ちゃんのこと誤解してた。麗

華ちゃんが俺の秘密知ったら嫌われるとば

かり、麗華ちゃん！ 俺——」

麗華まさちか が伸ばした手で正親の鬘かつらを引っ張

り、ずるりと外れる。

鬘かつらを持った麗華は目を見開く。

麗華の目に涙がたまり、後ずさり、か

ぶりを振る。

麗華 「……嫌」

正親まさちか の笑顔は硬直し、目を見開く。

正親まさちか 「……ハゲ……なん……ちやって……」

愛想笑いをしながら正親は六雄を見る。
六雄は眉をしかめて遠くを見ている。
視線を戻し正親はそつと麗華に近寄る。

正親 「麗華……さん？」

麗華 「嫌あー!!」

麗華に両手で押されよろめく正親。

麗華は涙を流して、鬢を持ったまま、
六雄に抱きつく。

六雄 「正ちゃん!？」

正親 「六雄！俺の麗華ちゃんに抱きつくん

じゃ——」

正親は六雄と麗華にかけ寄る。

麗華 「近寄らないで！」

麗華に蹴られた正親は背後の椅子とテーブルごと倒れ、パフエが服に付く。

六雄 「正ちゃん！」

正親はすぐさま立ち上がろうとする。

正親 「麗——」

麗華は六雄から離れ、追い込むように
正親を踏み倒す。

正親まさちか 「ーさん」

正親を踏みつける麗華。

麗華 「嫌！」

正親 「ちよー」

正親は四つんばいで起き上がろうとする所を上から踏みつける麗華。

麗華 「来ないでえ！」

正親を踏みつける麗華。

麗華 「変態！」

正親を踏みつける麗華を背後から引き止めようとする六雄ろくお。

麗華 「よくもだましたわね！」

六雄ろくお 「正ちゃん！ 無茶苦茶だよこいつ！」

正親から麗華を引き剥がす六雄ろくお。

正親はうつぶせに倒れたまま動かない。

六雄ろくお 「正ちゃん後で連絡入れるから！」

六雄は麗華を見て、

六雄ろくお 「ちよ、こっち来い！」

六雄にひきずられながら麗華は手に持った鬘かつらをうつぶせの正親まさちかに投げつける。

麗華「このエロ紳士!!」

麗華を連れ去る六雄。
ろくお

正親の背中に鬘かつらがのっている。
まさちか

正親は鼻をすすりながら、にぎり拳を地面に叩きつける。

正親まさちか「くそ、女なんか、女なんか……」

男(30)と女(25)が通りかかる。

女「大丈夫ですか？」

正親まさちか「(大きな涙声)大丈夫ですから!」

ハゲた頭、背中に鬘かつらを乗せた正親は泣きべそをかきながら、顔をあげる。

女は噴出す。

男「(ささやき声)おい! いくぞ」

男と女は通りすぎる。

倒れたテーブルを立て、戻した椅子に腰掛ける正親。鬘まさちかを頭に戻すが、自然にずれている。背筋を伸ばすが服には。パフェがついたまま、

正親まさちか「キスしたかったあ」

正親はうなだれ、頭から鬘かつらが落ちる。